

文化芸術を楽しむ、秋

# 葉山町文化祭で 感じてみよう。

今年で46回目を迎える葉山町文化祭。今回は文化祭を主催する葉山町文化協会に所属する4つの団体（舞踊・合唱・書道・茶道）を特集します。みなさんも興味のある文化団体を見つけ、文化祭に足を運んでみてはいかがでしょうか。スケジュール等の詳細は、来月の広報はやまをご覧ください。文化芸術の秋を葉山で楽しみましょう。

愛好会の皆さんは、近年葉山音頭を踊れない人たちが増えたことがさびしいと嘆いています。

## 葉山音頭が踊れない人々

11団体の婦人会などが集まって組織され、平成6年に発足。発表の場はふるさとひろば、文化祭をはじめ、いこいの日、清寿苑・グリーンヒルなどへの慰問など。過去には御用邸の祝賀会で踊ったことのあるメンバーもいるそうです。

## 会の発足について



「葉山に住んでいる人は、盆踊りも身近でしょ。それなのに葉山音頭を知らない・踊れない人がたくさんいる。葉山音頭もふるさとひろば音頭も、とっても素晴らしくて後世に残したいものなのに。」

## 誰でも踊れます

「着物が着られない・自分には難しい・向いていない、そんな風に考えないで。体を動かすことだけでなく、扇子を持つ指先・足先にまで神経を集中させることで健康にもつながり、みんなで踊ることで人との絆が深まることもある。最近はお祭りなどで興味を持っている子どもたちもいて、後を追いかけてくるんですよ。そんな子どもも含めて、文化祭では一般参加も募っています。」

来月から始まる文化祭では、11日（日）の10時から、約30曲の舞踊を披露。

「今後の目標としては、町をあげて葉山音頭を踊りたい。子どもからお年寄りまでが踊ることができたらとっても盛り上がるはず。ふるさとひろばや文化祭を見て、少しでも踊ってみたいという気持ちになったら、12月1日の文化協会体験講座に参加してみてください。」

## 笑うように歌おう



合唱連盟のひとつ、コールエレガントの練習は約2時間だが、休憩なしですと歌い続けます。今回は、文化祭で発表する「川の流れのように」など4曲を練習。アップテンポで楽しい曲からゆっくりとした曲まで様々なハーモニーを聴かせる曲まで身をほぐす体操・腹式呼吸・発声練習と準備をします。「息はうしろ、声は前、頬を上げて笑うように声を出しましょう!」と指揮者の伊東さん。暗譜も難しいけど、顔を見せて舞台を明るくするためと指導していました。

## 練習後はお腹ぺこぺこ

「学生時代に合唱をやっていたが、仕事を始め、主婦になって、と長い間合唱から離れていた。そこに友人から誘われたのがきっかけ。続けていて良かったと思うのは、老人ホームにボランティア演奏に行った時、歌の心・気持ち伝わって涙を流されたこと。また、歌っている時は楽しくて、夢中になって、終わった途端に達成感とお腹がすく！それだけ体力を使っていますね。いい運動になっていると思う。」実際に歌っている皆さんの後姿を見ると、全員が背筋を伸ばしてとても良い姿勢で歌っていることがわかりました。

## 本当はすごい葉山町歌

「葉山町歌は、堀口大学作詞、團伊玖磨作曲という世界に通じる素晴らしい曲。でも実際は合唱連盟だけが歌い、機会も文化祭、葉山駅伝、ふるさとひろばの開会式ぐらいです。小・中学校でご指導いただき、多くの町民の方に歌えるようになってほしいですね。」

文化祭では9団体が合唱を披露し、12月1日には、体験講座もあります。皆さん是非ご参加ください。

## 葉山町書道協会



## 書に集中する贅沢な時間

「書道を始めようと思ったのは、書道展で見たことがきっかけ。私もあんな字を書いてみたい、その気持ちで始めました。半紙代・墨代などが多くかかるわけでもない、自宅でも手軽に書くことができるから、すぐに始めることができました。1日1時間ほど集中して半紙に向き合う、この時間が人生に余裕をもたらしてくれている。日に10枚、週に約50枚を先生に提出し、丸をもらえるのが何よりの喜びです。どんどん上達するわけではないけど、それが反

対に長続きしているコツかな。心身ともに健康でいたいと思うなら書道が良いと思う。気持ちが健康だと、良い字が書ける。人間の成長も字に表れる、まさに書は人なりです。」

## 書道はこんなに面白い

書道展と聞くと、知識がないと見てもわからないかと思いがちですが。「面白い書道を見に来てほしい。眺めていると心が穏やかになってくる書、あるいはウキウキと楽しくなってくる書。書道を始めて「線」に心が宿ることを知りました。書の上達には、まさに「自分磨き」でもあるのです。人に上手いと褒められた書でも、納得していない場合もあります。すよ。書道は一生満足できることはないんじゃないですかね、とにかく奥が深い。だからこそずっと続けていきたいと思えます。」

## こんな時こそ書道を

「気持ちが文字に出る、という話が出ましたが、確かに気持ちが揺らいでいる時・不安な気持ちは文字に出る。でも反対に、いらいらした時こそ筆を持つてみる。書いているうちに気持ちがすっと落ち着くことも楽しめるんです。家で書道をしてい

ても、家族が墨の匂いってなんだか良いね、と言ってくれる。家族の理解や協力も続けていられる秘訣です。」

## 未来へ

最近は何事の種類も増えて、書道を習う子どもが減っているのでは。「確かに書道人口が減っているのは、町だけでなく課題に感じていることです。しかし書道は単なる習い事ではなく、礼儀作法も身につくお稽古事。教室に通っている子を見ても、あいさつ、姿勢、筆の持ち方もしっかりとできる子どもが多いですね。騒いでいても、筆を持った瞬間に静かに集中している姿を見る度に、驚かされます。」

今後はどのような発展をしていくのでしょうか。

「書道には年齢も性別も関係ない。本当に多くの人が取り組んでいる。横のつながり、という意味では協会主催で隔年ですが、研修旅行や親睦食事会なども企画しています。他の教室の人との交流は刺激となり、もつとうまくなりたいたいと思わせてくれます。中学校書道部と連携して、パフォーマンスなんかも企画してみたいですね。」



## 葉山町茶道連盟



俗世を忘れて  
非日常を楽しむ茶道

### こわがらないで、経験を

ふとした機会に、お茶をいただくことになった時、「経験がないから恥ずかしい」「どうしていいかわからなくて、こわい」「できれば避けたい」などという気持ちになってしまいませんか。しかし一度経験してみると、今まで避けていたことがもつたないと思うほど、楽しい世界が広がります。

9月3日、葉山町茶道連盟に加盟

する一つの教室でのお稽古に参加しました。慣れない作法ながらも、生徒の皆さんに教えていただき、ゆつくりとした気持ちでお茶を楽しむことができました。帛紗（ふくさ）、茶杓（ちやしゃく）、茶筌（ちやせん）などのお茶の道具、お茶碗や棗（なつめ）に描かれた秋らしい模様も、すべてに興味があることを始めて知りました。皆さんも敬遠することなく、お茶の世界を覗いてみてはいかがでしょうか。

### 日本文化の集大成

「どうしても茶道は敬遠されがち。しかし毎年開催する春のお茶会や文化祭の呈茶会で触れることができれば、きっとこわい気持ちはなくなりますよ。」と先生は話します。

「茶道をする上では、掛軸やお花、焼き物、塗り物、香木などの知識を必要とするため、日本文化の集大成とも言える。また、だからこそ色々なものに興味が広がり、茶道の奥深さが楽しめます。茶道をやっている時は、他の雑念からは切り離され、没頭することができ。精神的な拠り所でもあり、何度も茶道に助けら

れたことがあります。」と生徒さんは教えていただきました。

### 広がる、葉山でのお茶

「何年前にですが、町の公民館教室で茶道の講座を開催していただきました。それをきっかけにお教室にも通う人が増えましたね。また、5月にしおさい公園で開催するお茶会は、毎回すぐに券が完売してしまいました。それだけ町内でお茶への興味、関心が増えていると思うと嬉しく思います。急に旅先や寺院でお茶をふるまわれることがあったとしても、葉山町民はお茶をいただく作法ができる、そんな町になってくれたら良

いですね。」

### お子さんも一緒に

葉山町文化祭では、詩吟、書道、三曲とのコラボレーションとして、茶道を披露します。また、福祉文化会館、町役場前の広場、図書館ホールに用意するスタンプを3つ集めると、お抹茶と和菓子を無料でいただけます。（スタンプがない場合は一服100円）文化協会所属団体による発表、展示を見たあとは、ゆつくりとお茶を楽しんでみてください。小中学生のお子さんも、学校では学んだことのなかったお茶の作法を、この機会に学んでみませんか。

## 副町長就任のごあいさつ



田邊 高太郎

海と山の自然に恵まれた葉山町で、みなさまが第一に思い浮かべるものは何でしょうか？

誰もいない小道を、ゆったりとトンボが行き交う風景。そんな、

日常生活で、つい見すごしている町の魅力はまだまだまだたくさん埋れているはず。葉山町民であることの喜びを共有したい、という思いで町政に参加いたしました。山梨町長のお考えを具体化しながら、みなさまの葉山町への思いを一緒に考えていきたいと思っております。

### 略歴

兵庫県出身。神戸大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得満期退学。三井銀行に入行ののち、震災復興に従事するために兵庫県に入庁。近畿大学非常勤講師、東洋英和女学院大学講師、千葉大学法経学部講師などを務め、内閣府所管（独法）国民生活センターを経て現職就任。葉山町長柄在任。